

教員名	齊藤由倫	所属学科	地域づくり学科
<p>【ゼミでは何を学ぶのか】</p> <p>当ゼミの活動目標は「地域の環境問題の解決」です。世界が合意した「持続可能な開発目標（SDGs）」に沿って、地域における食品ロスや温暖化問題などの課題に取り組みながら“Think Globally, Act Locally”の視点を養います。また、県庁や市町村役場との協働を通して地域づくりのための主体間連携についても経験を積みます。</p>			
<p>【どのように学ぶのか】</p> <p>2年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境問題・SDGsの知識力・プレゼン力向上 ▶ テキスト輪読とプレゼン発表 <p>3年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アカデミックスキル ▶ 社会科学分野のデータ収集と分析手法を学ぶ ・ 自己分析と研究技法 ▶ マインドマップ等のフレームワークによる自己分析と適合する研究テーマに沿ったフィールドワークを体験しながら研究技法を学ぶ <p>4年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究推進 ▶ 個人研究の年間計画を立て、データ収集と分析を進める ・ 成果発表 ▶ 卒業論文の執筆やプレゼン発表を通してアウトプット手法を学ぶ 			
<p>【学んだことはどのように生かせるのか】</p> <p>SDGsが世界の潮流となるいま、行政や企業などで環境関連の業務に携わる人は増えています。たとえば企業では、SDG Compass(社会面・環境面で企業のSDGsへの貢献を定めた世界的指針)に沿って経営戦略の立案や実行に関わっています。「大豆」を例にとれば、その生産の裏で農地開拓による森林破壊や途上国での低賃金・長時間労働の問題が指摘される中、国際市場は環境配慮型とフェアトレードを強く志向しています。この理念に適合した大豆であることを示すRTRS認証を国内で早くに取得し、他をけん引する先進的企業の立役者として活躍する方々がいらっしゃいます。</p> <p>環境関連の担い手が必要な場面がさらに増えていく将来、環境問題やSDGsに主体的に携わり、学んだという経験が社会に出た際に生かされるでしょう。</p>			
<p>【おすすめの入門書・基本テキスト】</p> <p>松藤敏彦（2019）『科学的に見るSDGs時代のごみ問題』丸善出版 宮永健太郎（2023）『持続可能な発展の話「みんなのもの」の経済学』岩波新書</p>			
<p>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</p> <p>「環境問題は心配。でもどうしたら…」 「何か貢献してみたいけど…」 その漠然とした思いを当ゼミで具現化(社会活動に接続)させましょう。</p>			